

## ロックアンカー併用で経済的に施工

多数アンカー式補強土壁工法

「三遠南信自動車道」は、長野県飯田市の中央自動車道と静岡県浜松市の新東名高速道路の間を結ぶ延長約100kmの高規格幹線道路です。

この計画のうち「国道152号小嵐バイパス」区間は現道が長野・静岡県境付近で自動車通行不能区間のため迂回を余儀なくされており、少しでも早い開通が望まれています。

同道において現道の交通を確保しつつ拡幅工事を行なう箇所がありますが、その工事を効率的に進めるため白羽の矢が立ったのが「多数アンカー式補強土壁工法」です。

一般的に摩擦系の補強土壁の場合、補強材に必要な定着長を確保するよ

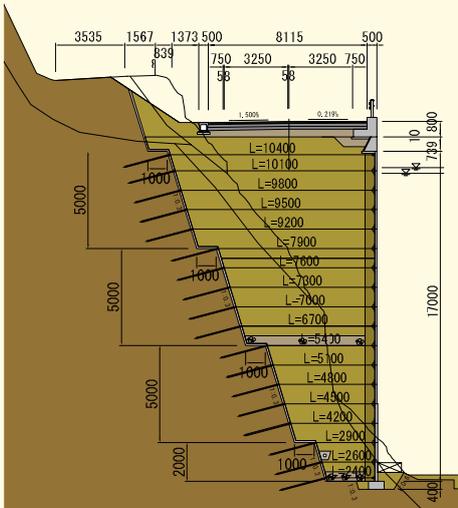


通常のアンカープレート式（手前）とロックアンカー緊結式（奥）

とももたらしています。

完成した「ロックアンカー併用型」多数アンカーは同工法では国内最大級となる壁面高さ20.0m、タイバー総本数約3,300本（うちロックアンカー式約2,000本、アンカープレート式約1,300本）の規模となりました。

ロックアンカー式での施工にあたっては壁面との位置関係を正確に把握するため実際に現場にて岩盤から壁面までのタイバーの必要長を計測、100mm単位で部材を製作し施工しています。



う考慮すると地山の掘削量や盛土量も多くなりがちです。しかし多数アンカー式補強土壁では、背面に堅固な岩盤がある場合はロックアンカーを打ち込んでこれをタイバーと緊結することで補強土壁として構築することが可能で、岩盤を掘削する必要がないため工程を大きく短縮でき、早期開通への道筋を付けることができます。

また広範な土質を適用できる同工法の特性を活かし、県境で行われているトンネル工事のズリを盛土材に転用、有効利用できる副次的なメリッ

### 工事概要

施主：長野県飯田建設事務所  
 工事名：平成29年度 社会資本整備総合交付金（道路）工事  
 施工：1工区 株式会社守谷商会  
 2工区 木下建設株式会社  
 商品：多数アンカー式補強土壁 2,178m<sup>2</sup>

## お国自慢

冬の牡丹

経営統括室 森谷紘美

東京の「上野恩賜公園」には美術館、博物館、不忍池、上野動物園などがあり、芸術文化や自然が楽しめる場所です。春の桜の名所ですが、今回は冬の「ぼたん苑」を紹介したいと思います。

徳川家康公を祀る上野東照宮では、冬の牡丹の見頃に合わせて一月から二月にかけて約二百株が楽しめます。牡丹の花は雪の重みで花が落ちないように、霜よけのわらぼっち 藁囲い に包まれています。

牡丹には早春と初冬に咲く二期咲きの品種があり、このうち低温で開花した冬咲きのものが「寒ぼたん」。気候に大きな影響を受けるため、咲かせるのが極めて困難ですが、苑内にわずかですが咲いています。

一方、春と夏に寒冷地で開花を抑制し、秋に温度調整して冬に開花させるという栽培技術で咲かせたものが「冬ぼたん」です。環境の変化に弱い冬の牡丹はきれいに咲くと縁起の良い花とされたそうです。わらぼっちの下で楚楚と咲く可憐な姿はとても綺麗で魅了されます。

苑内には枯山水の日本庭園もあり、ここから見る旧寛永寺の五重塔を背景にした花木の景色はとてふフォトジェニックで、江戸時代にタイムスリップしたようです。



岡三リピック商品群

道路・盛土 多数アンカー式補強土壁工法 トリグリッドEX パラリンク フラットパネル RRR工法 EDO-EPS工法  
 ダイブラハウエル管 法面・防災 多機能フィルター ミニアンカーDO PDR工法 サビレス100  
 維持・管理 ARISライナー工法 SWライナー工法 RCGインナーシールα工法 Tn-p工法 ローマットHDB  
 鉄鋼建材 ライナープレート コルゲートパイプ 景観・環境 ロッキーステージ 斜面いりどり工法 フォトリックアート

## ラッピングバスから水族館へ フォトリックアート

鹿児島市では「平川動物公園」「いおワールドかごしま水族館」それぞれの年間パスポート発売の共同宣伝にバスのラッピング広告を用いることとなりました。昨年2月に走り出したそのバスは、背面部分に岡三リビングがデザインしたフォトリックアートが採用されていて、各方面からも好評を得ていました。



そのため水族館公社からは、夏休み期間のイベントとして写真撮影スポットを用意してフォトリックアートを飾るプランが起案され、イルカ、ジンベエザメ、クラゲがデザインされた大きな絵が館内各所に設置されることとなりました。

イベントは好評で設置期間を延長してフォトリックアートとの記念写真のSNS投稿を呼び掛けるなど大いに活用された模様。このフォトリックアートはイベント後も保管するとのことなので、近々なかの機会にまた登場するかも知れません。

▼クラゲ



▲イルカ



▲ジンベエザメ

ただし家族信託は締結時点で親の判断能力がまだあることが前提の「事前の備え」。いま元氣な親には切り出しづらい話だが、突然の怪我や病気で動けなくなる事もあるので、そうした切り口で始めるのがいいようだ。それに親は次席受託者も指定できるため、万が一、管理を受託した筈の子が先にボケてしまっても（！）不安がないという。

こうした世情のなか、親子間の資産委託契約ともいうべき「家族信託」が近年注目を集めているという。認知症への対応でよくある後見人制度が資産保全に重きを置き残る家族自身が制限を受けがちなのに比べると、比較的自由度が高い仕組みになっている。

いきおい親の財布や通帳を取り上げたりしまいがちだが、突然手許から大事なものがなくなると「誰かが意地悪して隠した」などと思いはじめめることもあるので対応には慎重さが要だ。

これからの日本、高齢者の三人に一人は認知症になるといわれており、誰も気がなるのが親の今後だ。同じ話を繰り返す程度はまだ微笑ましく、不必要な買い貯めをしたり、様々な暗証番号を失念したり、コンロでボヤを起したりと、やがて家族は色々な困り事に直面するようになる。

親が転ぶ前に

### 徒然月記

記：編集T



岡三リビング株式会社

東京都港区港南1-8-27 日新ビル ☎03-5782-9082



札幌・盛岡・仙台・高崎・東京・新潟・金沢・長野  
静岡・名古屋・大阪・米子・広島・高松・松山・福岡  
鹿児島・沖縄リビング(株)・岡三リビングベトナム会社